

石巻港復旧見学会

～見てみよう！石巻港復旧工事とガレキ処理の最前線～

を開催しました

石巻港では本格的な復旧・復興に向けて、港湾施設の復旧工事やガレキ処理が本格化しており、暑さが厳しくなる中、現場では多くの方が働いています。

この夏休みを利用して地元の小・中・高校生に石巻港の復旧・復興を実感してもらうため、8月8日（水）に東北地方整備局塩釜港湾・空港整備事務所と宮城県の共催で現場見学会を企画し、一般応募の子供25名、保護者等18名に、港湾利用者等10名、行政関係者7名を加えた合計60名の参加により開催しました。

見学会では、先ず安全に見学するための注意事項を確認し、石巻港の役割や東日本大震災の対応、災害廃棄物処理の概要の説明を行いました。その後、安全装備を整え業務艇に乗船して石巻港内を見学する海上視察班と、バスでガレキ処理の状況を視察する陸上視察班に分かれて現場に出発しました。

現場見学では、大型船が利用するスケールの大きな港湾施設を造り上げるための地道な作業や、宮城県内の震災ガレキの約半分を抱える石巻ブロックの膨大な量のガレキを再生資源と焼却処理するものに分別する、気の遠くなるような作業を黙々と続ける姿を見てもらいました。この作業なくして、石巻地域の再生はないことを実感し、自分には何ができるのか？を考えるきっかけになったものと思います。

見学会終了後に記入して頂いた“ふりかえりシート”には、現場で働く方々への応援メッセージをお寄せ頂きました。働く人の力になります。有り難うございました。また、石巻が一日も早く元の姿に戻って欲しいという願いや、自分も地元の力になりたいという思いも記載されていました。きっと、地元の担い手として将来を切り開く力になってくれると思います。

一日でも早く元の石巻に戻すための努力は今日も続けられています。

当事務所が所管する災害復旧工事も“見える化”に努め、この見学会同様“安全第一”で推進して参ります。

尚、見学会参加者には修了証を交付致しました。



